



# 新聞まさひこ通信

曙  
あけぼの

公明党福岡県議団 会報  
発行責任者  
福岡県議会議員  
**新開 昌彦**  
福岡市早良区曙2-1-35  
Vol.59号  
平成26年1月26日発行

## 県政報告

## 12定例会報告

12月定例会が12月2日から19日まで開会され、松下正治議員が公明党の代表質問を行いました。

●消費税引き上げの影響に対して、知事は、国の経済対策を最大限に活用し景気・雇用対策に全力を尽くす。更に県制度融資の予算枠を確保し中小・小規模事業者に対する資金繰りの円滑化を図ると答弁。

●10月に発生した有床病院施設の火災死亡事故後、決算委員会で県内の医療施設、社会福祉施

設の防火避難設備の設置状況を調査するよう質問。知事は、今回の補正予算で県内の4,109施設を26年度末までに点検を実施し、是正を促すと答弁。

●10年間で建設業の34歳以下の就業者は3万人、4割減少。公共工事の労働者の不足が懸念される。知事は、必要に応じて工期の柔軟な設定など適切に対応すると答弁。



## 一般質問

今回は、年々増加する孤独死について質問しました。

## 孤独死をなくせ！

### 合鍵を管理せよ！



福岡県警の「独居高齢者の死体取扱数」は年々増加し、昨年10月の時点で1,025人と最悪の状態。

県営住宅・県住宅供給公社では、管理人が合鍵を持たないため住民の安否確認や救出に時間がかかる。警察、消防も緊急性がなければ、踏み込めない。

私は、県営住宅・県住宅供給公社は、一人暮らし高齢者の了解を得て合鍵を管理すべきと提案。

知事は、前向きに検討すると答弁しました。



平成23年の公明党福岡県議団の調査で、身寄りのない高齢者が福岡都市圏に約4万人もいると想定。独居の高齢者は、寂しく相談相手を求めていました。市町村では、見守り事業の他に緊急通報システムがあるが、高齢者は、迷惑がかかるからと、緊急ボタンを押しづらいという。

NPOの在宅医療サポート協会が、発想を転換。緊急通報システムの子機を利用し、コールセンターが毎日安否確認、24時間相談ができる事業を開。高齢者や家族に大変喜ばれている。県は、もっと活用すべきと提案。

知事は、活用について前向きな答弁をしました。

### NPOの活用を！



コールセンターで説明を受けました。

# えつ!今まで無かったの?



## 昨年12月6日、福岡市早良区のUR星の原団地に 来客者用有料駐車場が完成。

平成23年9月星の原団地にお住まいの十田時代さんから相談がありました。「私を訪ねてきてくれる、娘やお友達が駐車場がなくて、大変苦労しています。コインパーキングがあればとても助かるんですけど」との声。

UR九州支社長に相談。「一人暮らしの高齢者が多くなっている。コインパーキングの設置は、時代の要請でしょう」と承知してくれました。今後隨時広がっていくと思います。

またひとつ皆さんの声が実現できました。

このお陰で県営住宅にもコインパーキングの設置が決まりました。感謝です!



## 知事に予算要望

12月19日公明党福岡県議団は、小川洋知事に来年度予算に対して234項目の要望を行いました。

小川知事は、現場に即した公明党のご意見に真摯に一つ一つ検討したいと答えました。